

御担当医御侍史

突然書面にて失礼致します。バイオセラクリニック院長の谷川と申します。この度、貴院ご加療中の患者様が当クリニック受診を希望されるにあたり、診療情報をご提供いただきたくお願い申し上げます。

我々は東京女子医科大学消化器外科の臨床研究グループ：癌免疫療法チームを母体として自費でも治療を希望される方を対象に、東京女子医科大学消化器外科関連の医療機関として 2001 年に開設致しました。現在ではがん研究会 がんプレシジョン医療研究センターのご協力のもとネオアンチゲンを用いたプレシジョン医療プロジェクトに参加させていただき、また大阪大学大学院・杉山治夫教授からの協力依頼も受け、癌抗原 WT-1 の免疫療法にもご協力させていただいています。さらに免疫療法や化学療法・放射線治療等への相乗効果を目的に、日本ハイパーサーミア学会認定施設として局所／全身の温熱療法も行っています。

近年免疫チェックポイント阻害剤（CPI）の登場で癌への生体防御が再認識されるようになり、癌への免疫が劣っている原因としてチェックポイントの存在と低抗原性があることはご承知のことと存じます。癌細胞表面には遺伝子変異により生じた異常タンパクが分解されたものが発現し、免疫系から認識される癌抗原が存在します。この抗原が多ければ潜在的免疫が上がることは、昨今の CPI の有効性が MSI や TMB に関連していることからご存知かもしれません。しかし、発現癌抗原を効率的に認識しているわけではないため、これを強制的により認識させ、免疫性を高めることが免疫細胞療法の目的です。

免疫細胞療法（+温熱療法）は自身の免疫反応で癌細胞を排除する能力をより上昇させることを目的としています。したがって癌細胞の増殖抑制を目的とする治療（化学療法）とは異なる視点からなっており、化学療法施行中であっても、その効果の増強という点で併用も望ましい方法と考えられます。

現在、私どもは再生医療新法に準拠して、特定細胞加工物製造事業者としての届出を受理された上で、ご本人の免疫細胞を利用し治療を行っています。また抗原認識を高めることを目的に温熱療法の併用を行うこともあります。どちらの治療においても単独での著しい腫瘍の縮小といった **benefit** を強く示すことができないものの、術後の無再発期間の延長、OS や PFS の延長などは学会等では多く報告され、尚且つ **risk** の少ない治療であることは確認されております。

この度、患者様からご相談を受けるにあたり免疫細胞療法について詳細なご説明をさせていただきますが現行で標準治療が行われている場合であっても併用可能な場合も多く、その場合は自費診療として独立して担当させていただきたく存じます。誠に勝手ではございますが、これまでの治療経過・腫瘍マーカー・感染症を含めた血液データ・現状のがんの状態がわかる資料等をご提供いただければ幸いです。また、もし治療を希望された場合には更に情報提供やご協力をお願いする事があるかもしれませんが、そのときには改めてご連絡させていただきます。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-6-12 MF 新宿ビル  
医療法人社団バイオセラ会 バイオセラクリニック  
院長 谷川 啓司